

清水 卯一 (しみず うち) 略歴

- 1926 (大正15) 3月5日 京都市東山区五条坂で京焼陶磁器卸問屋を営む父・卯之助、母・モトの長男として生まれる。
- 1940 (昭和15)【14歳】 立命館商業学校中退、作陶の道を志す。京都洛北・八瀬の石黒宗麿に師事。
- 1941 (昭和16)【15歳】 京都・国立陶磁器試験場に伝習生として入所。
- 1945 (昭和20)【19歳】 同試験場を退職、自宅を工房とし作陶再開。
- 1951 (昭和26)【25歳】 「第7回日展」に初入選。〈柚子肌釉大皿〉(以降1955第11回展まで出品)
- 1953 (昭和28)【27歳】 「第2回現代日本陶芸展」で朝日新聞社賞を受賞。
〈掛分けの鉢〉(3、4回展も同賞を連続受賞)
- 1955 (昭和30)【29歳】 第1回日本陶磁協会賞を受賞。
- 1958 (昭和33)【32歳】 初個展「第1回清水卯一作陶展」開催。(東京日本橋・三越、以降度々開催)
「第5回日本伝統工芸展」で奨励賞を受賞。〈壺〉
「ブリュッセル万国博覧会」に出品しグランプリ受賞。〈柿釉深鉢〉
- 1960 (昭和35)【34歳】 「第7回日本伝統工芸展」で日本工芸会総裁賞を受賞。〈鉄釉大鉢・小鉢〉
- 1962 (昭和37)【36歳】 「第3回プラハ国際陶芸展」に出品し金賞を受賞。柿釉による〈鉄釉壺〉
「第9回日本伝統工芸展」で朝日新聞社賞を受賞。〈柿地黒線文鉢〉
- 1967 (昭和42)【41歳】 「イスタンブール国際陶芸展」に出品しグランプリを受賞。
- 1970 (昭和45)【44歳】 滋賀県志賀町の蓬萊山麓に蓬萊窯を開く。
- 1973 (昭和48)【47歳】 「第20回日本伝統工芸展」で20周年記念特別賞を受賞。〈青磁大鉢〉
- 1977 (昭和52)【51歳】 日本陶磁協会より日本陶磁協会金賞を受賞。
- 1985 (昭和60)【59歳】 4月13日 重要無形文化財「鉄釉陶器」の保持者(「人間国宝」)に認定される。
- 1986 (昭和61)【60歳】 紫綬褒章を受章。
- 1990 (平成2)【64歳】 「作陶50年のあゆみ 人間国宝 清水卯一展」開催。
(東京日本橋・高島屋他)
- 1994 (平成6)【68歳】 紺綬褒章を受章。
- 1996 (平成8)【70歳】 「古希記念 清水卯一展」開催。(パリ・三越エトワール)
- 1998 (平成10)【72歳】 勲四等旭日小綬章を受賞。
- 2004 (平成16)【77歳】 2月18日 大腸がんのため死去。